

兵庫県立龍野北高等学校改善プラン

— 「開かれた学校づくり」を推進し、地域から必要とされる学校をめざす —

専攻 教育実践高度化専攻
コース 学校経営コース
学籍番号 P08004C
氏名 栗林 秀忠

1 はじめに

本校は、平成20年4月「県立高等学校教育改革第1次実施計画後期計画」によって県立新宮高校と県立龍野実業高校との発展的統合により誕生した。全日制・看護専攻科、定時制の3つの課程を有し、工業系の3学科(電気情報システム科・環境建設工学科・総合デザイン科)と看護福祉系の2学科(総合福祉科・看護科)を有する全国的にもユニークな専門高校である。

本年度新校舎は完成したが、まだ統合過程にあるため、龍野北・龍野実業・新宮の3高校が同一校舎に同居している。本改善プランは、このような状況を鑑み、龍野北高校の全日制に限定して作成した。

2 改善プランの構成

- 第1章 専門高校をめぐる教育動向
 - 第1節 国の教育改革における専門高校
 - 第2節 兵庫県の教育改革における専門高校の動向
- 第2章 龍野北高校の現状と課題
 - 第1節 龍野北高校の現状
 - 第2節 龍野北高校の課題
- 第3章 龍野北高校改善プランの概要
 - 第1節 改善プランの方向性
 - 第2節 「動じない組織づくり」の提案
 - 第3節 「開かれた学校づくり」の提案
 - 第4節 「キャリアデザインを描ける生徒の育成」への提案
- 第4章 改善プランの実現に向けて
 - 第1節 改善プランの実実施計画
 - 第2節 改善プラン実現にむけた県教委への提言
- 第5章 改善プラン実現後の龍野北高校

3 改善プランの概要

第1章 専門高校をめぐる教育動向

教育振興基本計画、中教審答申、新学習指導要領、「ひょうご教育創造プラン」、「県立高校教育改革第2次実施計画」等を通じて、今後の専門高校づくりのキーワードが、「キャリア教育」「開かれた学校づくり」「学校評価システム」であることを確認した。

第2章 龍野北高校の現状と課題

第1節 学校の現状

校訓「進取、錬磨、貢献」を根幹にすえ、地域社会のニーズに応える「ものづくり」「まちづくり」「ひとづくり」の教育を通じてスペシャリストを育成し、時代の変化に対応でき、生徒自ら自身の夢と高い志を持ち、輝ける未来を実現できる教育を目指している。

各学科の紹介とともに2年間にわたる新高校づくりのさまざまな取組について紹介している。

第2節 学校の課題

組織、学校評価、地域連携、教職員、生徒、工業系学科、看護福祉系学科に関わる現状の課題について分析した。ただ、龍野北高校に限定した課題ではなく、3高校同居の課題であるため、次の課題に絞って改善プランを作成することとした。

- ・教職員の転退職に動じない組織をどうつくっていくか。
- ・学校評価をさらに戦略的なものとしていくにはどうすればよいか。
- ・教員も生徒も有用感を持てる地域連携とするためにどうすればよいか。
- ・単に資格を取得させるだけでなく、人生設計を描ける生徒をいかに育てていくか。

第3章 龍野北高校の学校改善プラン

第1節 改善プランの方向性

第2節 「動じない組織づくり」の提案

(1) 主幹戦略会議の設置

主幹教諭のみの会議の定例化。ボトムアップ型の組織への転換をめざす。

(2) 部主任の育成（目標管理）

学校評価と連動して、部主任に対する目標管理を実施する。

(3) 「次なるミドル」の育成

校長のリスクテイクによる若手・中堅教員の起用・登用を提案する。

(4) 現行の学校評価システムの改善

全体スケジュールや自己評価シートの改善を提案する。

(5) 戦略的な学校評価への進化

- ・P D C AからC A P Dへ（C後を重視）
- ・学校評価委員会が、最終自己評価の分析に基づき、次年度の重点目標策定や中長期的な課題について検討し校長に進言していくシステムへの転換を提案する。

第3節 「開かれた学校づくり」の提案

総合福祉科を中心とした新たな地域連携

(1) 「介護福祉士国家試験公開講座」

施設の介護従事者の国家試験合格をサポートし、全国の国家試験合格率の底上げに福祉系高校が貢献する提案。

(2) 「E P A（経済連携協定）サポート事業」

政府の政策をサポートする提案。インドネシア、フィリピン等の介護従事者の国家試験合格をサポートしていく事業の提案。

以上2つの取組を全国に先駆けて行うとともに、福祉学科が日本の超高齢社会を支えるモデル的な取組として発信する。

第4節 「キャリアデザインを描ける生徒の育成」への提案（キャリア教育の確立）

- ・経済状況の悪化や大学全入時代等、社会環境が大きく変化するなかで、キャリア教育の重要性を確認した。
- ・各学科の独自性を尊重しながらも、「龍野北校生」としてのブランドを作り上げていくために、学校全体でキャリア教育を確立、推進していかなければならない。
- ・学校教育目標や教育方針への位置づけとともに、推進プロジェクトチームを作り、職

員研修を通じて学校の教育活動全体で取り組むことを提案した。

- ・「3ヶ年の積み上げ方式」のプログラムをつくり、現在2年生で単発的に行われているインターンシップも全員参加型でかつ単位認定を行う方式で組み入れていく。挨拶や規律マナーとともに、職業観や勤労観を育て、基礎学力を伸ばすとともに、多様な資格取得までを学科の協力のもと組織全体で取り組んでいくことを提案した。
- ・2～3年での「まちづくり科目群」を充実させるために、また学年団が学科の壁を越えて団結できるように、1年生の段階で全学科の授業実習体験やミックスホームルームの実施を提案した。これにより生徒は他学科の生徒から刺激を受けるとともに、学年間の横のつながりを強くすることができる。またクラス替えが実施できる。
- ・全職員での取組にするために、職員間における学科の壁を低くするために、担任の負担軽減のために、正副担任制の導入を提案した。
- ・その他、キャリアアドバイザー制度として保護者やOB、OGの登録制人材バンクの創設を提案した。

第4章 学校改善プランの実現に向けて

第1節 改善プランの実施計画

(1) 学校改善チャート

時系列で改善イメージを示した。

(2) 「優先順位検討マップ」(プライオリティ priority)

提案したプランの効果と着手の難易を示すことによって、優先順位を考えた。

第2節 兵庫県教委への提言

本改善プラン実現に必要な県教委からの支援等について提言した。

第5章 改善プラン実現後の龍野北高校

改善プラン実施後に向けた、将来の目指す学校像、生徒像について論じた。

修学指導教員 大野 裕己